

「ああ、歸りませう」

國男さんは、鐵かぶこのついた枝を、又かつぎ、片手でお母様のたもこをつかまへてお家へ歸りました。なんだか少しねむくなりながら。

お耳のそばで、さつきのお園子が、

「國男さん元氣に大きくなあれ。ひまつお年をまつた國男さん丈夫になあれ。」と云つてゐる様でした。

さいさうばらひ　と云ふお祭りのおはなしは、これでおしまひです。

二 等 春 が 來 た

杉 山 よ ね

〃春が來たく／＼何處に來たア〃

お庭の方からフミ子さんのお聲が聞えて來ます。ヒロシさんは

〃山に來た　里に來た　野にも來たア〃

と一緒歌ひました。

「だけれご春つて本當に何處に來たのかしら僕は未だ見た事ないけれご……」

ヒロシさんは、春さんて一體どんなお顔をして居るかしら、ごか さんなお聲でお話するかしら、ごか考へて見ました。其中にヒロシさんはいゝ事を考へ出しました。

(さうく)春さんを探がして來やう フミ子ちゃんも一緒に！ それがいゝく)それでヒロシさんが大きなお聲で

「フミ子ちゃん」

ご呼ぶごすぐ可愛いフミ子ちゃんが

「ナーニ？お兄様」

ご云ひ乍ら來ました。

「あのねフミ子ちゃん 春さんを探がしに行かうよ」

「春さんてナーニ？」

フミ子ちゃんが不思議さうに聞きますので、ヒロシさんは先刻から考へて居た事をお話しました。するご

「えゝ行きませう 連れて行つてね」

フミ子さんが大喜びですぐお支度をしました。大きなおいしいおむすびを澤山作つて……でも

困つた事には二人とも春さんが何處に居るかを知らないのです。

「何處に居るのかしら？」

「さうねえ……あゝお兄様 春つてお山や野原に居るんでしょ？だつて、春が来た」のお唱
歌に

山に來た 里に來た 野にも來たアーッ つて云ふんですもの」

「さうだくきつて野原やお山に居るね」

それで二人は喜んで出掛けました。お外は もうせんに佩を揚げに來た時よりも、ずつとす
つと暖かでした。好い氣持です。

二人はお歌を歌ひ乍ら歩いて行きました。さうするに向ふから可愛い駒鳥さんが飛んで來ま
した。

「チツ／＼／＼今日はヒロシさん フミ子さん さちらへお出掛けですか？」

「今日は 可愛い駒鳥さん 私達はね、春を探がしに行くのよ」

「フミ子さんが云ひますよ 駒鳥は大喜び

「チツチツ それなら私も御一緒に連れて行つて下さい。」

お歌の上手な駒鳥さんも御一緒に、前よりも賑やかに歩いて行きました。きれいなお聲、可

愛いお歌、楽しい道を暫く歩いて行きますよ、今度は向ふからお馬さんが来ました。

お馬さんはヒロシさんごファミ子さんご駒鳥さんを見るご、クロッパくご歩いて来たのを立止つて云ひました。

「ヒ、ーンく今日は坊ちゃんお嬢さん さちらへお出掛けですか？」

ご聞きました それでヒロシさんが

「今日は、お馬さん、僕達はね、〝春〟を探がしに行くの、野原やお山に居るかも知れないから……」

さうするごお馬さんは勢込んで云ひました。

「春さんを探しにですつて？さうぞ私も連れて行つて下さい……私の足はこんなに丈夫だし、若しも坊ちゃん達がくたびれたら背中に乗せてあげる事だつて出来ますよ、さあ御一緒に参りませう」

それで又お友達がふへましたので皆大喜び 前よりも、もつミくお元氣良く歌つたりお話ししたりして、何處迄もく歩いて行きました。暫く行くミ耳のあたりで、誰か優しいお聲で

「今日は坊ちゃん」

「今日はお嬢さん」

を呼ぶものがあります。

「誰？」

皆で前や後や遠くや近くや 探がしましたのに、誰も居ません

「まあごなたでせう……今本當に、今日は、つて聞えたのに……」

ミフミ子さんが云ひますミヒロシさんも

「うん、本當に誰かと呼んだ」

駒鳥もお馬も

「私も聞いたわ」

「僕も……」

皆で不思議に思つて居ますよ、今度は柔い布でホッペを撫でる様に

「私は此處に居ますよ、今お呼びしたのは私です、東風ですよ」

「ナーンだ、風さんなの、だけき何處に居るのいくら探がしても僕には見えないうよ」

「私にも見えないうわ」

するよ又風さんのお聲がしました。

「え、私は皆さんのお目目には見えないうですよ、でも、ほら氣を付けていらつしやい私は

通り過ぎる時皆さんのおつむやホッペをそ一つミ撫で、通りますよ。こうして私は一つミ向ふから町も海もお山も通り越して旅をして来ました。澤山の坊ちやんやお嬢さん達に會ひましたよ。色んなお話しも聞きました。佩あげをして居た坊ちやんは私の事を「もつこく強く吹いて」なんて云ひました。でも私はもう春が来るのでそんなに強くは吹けないですよ。」

「えつ？春が来るつて？君春は何處に居るか知つてるの？僕は春を探して居るだけだし」「あゝ春なら向ふから……今私の通つて来た方からもうすぐ來ますよ。緑の着物を着て赤や桃色や紫や黄色の綺麗なお花飾りをつけて居ますよ。そして其のお聲はとても可愛いゝんです。」

「親切に教へて呉れました。風さんに有難うござよならを云つて歩き初めました。もうすぐ春さんに會へるのです。」

「春よ來い 早く來い」ミ歌ひ乍ら……

やがて遠くの方にボツリミ黒いものが見えました。急いで歩くミ、さんく其の黒いものは大きくなつて、さうく木の澤山ある森へ着きました。黒ミ見えたのは木だったのです。

「おや〜道を間違へたのかしら？お山にも野原にも着かないでこんな所へ來て仕舞つた。」

お馬さんが心配さうに云ひますので駒鳥さんが、一本の木にこまつて聞きました。

「チチック／＼若しく／＼森の木さん今日は、野原は何處にあるでせう？」

する／＼其のびんぐりの木はびつくりした様に云ひました。

「やお駒鳥さん暫らくですね、野原なら此の森を通り過ぎればすぐですよ……でも駒鳥さん、さうして野原へいらつしやるのですか？皆他の鳥さん達はぎん／＼此の森に集つていらつしやいますよ」

する／＼ヒロシさんが傍から

「僕達はね、春さんを探して居るのですよ。きつ／＼野原には居るだらうつて……」

／＼云ひます／＼びんぐりさんは

「あゝ春さんですか？それならもう此の森へすぐ來ますよ……ほら聞いてごらんさいあれが春さんをお迎へする聲です」

それで皆は靜にしてお耳にお手々を當てました。あゝ本當にチイチク／＼ピーグル／＼ポッポー／＼クルー／＼こ賑やかな事／＼いろ／＼なお聲が聞えて來ます。する／＼駒鳥さんは嬉しさうな／＼お聲をあげて

「あゝ春です／＼春さんが來たのです。私は行かなければなりませんチチック／＼」

ミ飛んで行きました。森の奥は一層賑やかになつた様です。それでお馬さんミヒロシさんミフミ子さんはごんぐりさんにお禮を言つて出掛けました。もうそこ迄春さんが来て居るのです。嬉しくて〜ごん〜歩きました。

「何處かで雲雀が鳴いて居る」

歌ひ乍ら歩いて居るこやがて、緑の緑の深々ミ柔かさうな草の生へた所に出ました。ヒロシさんが

「あッ野原だ！」

ミ云ふミ 今度はお馬さんが

「あッ 春です〜春が来たのですおいしいおいしい春の草ですよ 春さんの何よりのお土産です」

お馬さんはもう嬉しくて〜たまらなさうに、あの大きなお鼻で綺麗な緑の草の匂ひをかいで、それからあの大きなお口でおいしさうに〜それを食べ初めました。ヒロシさんはフミコさんに

「ね、本當に之が春さんかも知れない、先刻はあんな可愛いお聲でさへづつて居たし、こんなに緑のおベ〜を着て居るよ」

「云ひますよ、フミコさんは」

「でもお兄様、赤や紫のお花飾りは！」

「云ひ乍らあたりを見廻して居ましたが」

「あッ！」

「云つて走り出しました。あつたのです。蓮華草や菫やたんぽぽや、綺麗なお花飾りが澤山あつたのです。さうくフミコさんも春さんに會ひました。次から次へさよい匂、綺麗な色、フミコさんはヒロシさんの事も忘れてお花に夢中でした。一人になつたヒロシさんは」

「フミコちゃん、お花澤山あるの？」

「云つて、其の方へ馳け出しますよ、おやつ少し先の所でチカッミ光るものが見えます」

「何でせう……急いで其の方へ行つて見ました。お水の綺麗な小川がルンルン流れて居ます」

「やあ、川だ」

「ヒロシさんが大きな聲を上げた時」

「今日はヒロシさん」

「今日は坊ちゃん、春が来ましたね」

「まあ、可愛いめだかさんの行列です。後から、透るやうな淡い橙々色のお體で、ツイ〜」

こお水の中をすべつて來ます

「やあめだかさん今日は、今日は、春が來た春が來た、本當に春が來たのね」

ヒロシさんもすつかり嬉しくなりました。そこへ眞黒なツルクしたお體のおたまじやくしもチヨロリくく來ました。

〃春が來た 春が來た 何處に來た〃

山に來た 里に來た 野にも來た〃

お馬さんもヒロシさんもフミコさんも、嬉しくてくく大聲で歌ひました。だつてさうく春さんに逢へたのですもの、縁のおべとにめだかやおたまじやくしの模様のある川の帶をしめて赤や黄や紫の美しいお花飾りをつけて綺麗なお聲の春さんに……

もう春はここにでも來て居たのです。

三 等 ニコくダルマさん

佐藤 久子

人さぼりの、にぎやかな街にね、眞赤なお店が一軒ありました。